

建設防災 ボランティアニュース 第 56 号

| | |
|----|--|
| 目次 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度定期総会 ・ 第1回リーダー会 ・ 風水害対策訓練 ・ 砂防ボランティア全国の集い ・ 意見交換会(北北建・南東建) |
|----|--|

平成 27 年度定期総会開催

平成 27 年度定期総会は 6 月 23 日 (火) 午後 3 時から東京都道路整備保全公社 A・B 会議室において、会員 80 名が参加して開催されました。

藤田理事の進行により、まず杉浦会長から「昨年度は、皆さんのおかげで防災訓練などの恒例の活動を着実にすることが出来た。今年度は定常の活動に加え、迫り来る災害に対して、改めて協会として成し得ることを確認し合う 1 年にして欲しい。多くの活動に参加された会員に感謝するとともに、事情によりなかなか参加が叶わない

会員も、お持ちの意欲と経験で協会を支えていただきたい。」との挨拶がありました。



杉浦会長

また来賓である横溝東京都技監(建設局長)、山口東京都道路整備保全公社理事長、飯尾東京都公園協会理事長からそれぞれ丁寧な御挨拶をいただきました。



横溝都技監



山口理事長



飯尾理事長

続いて中田会員を議長に選出し議事に入りました。まず平成 26 年度事業報告を野村理事が、同収支決算報告を萩原理事が説明し、今回で本部役員を退任される小山監事が会計監査報告を行った後、満場の拍手で承認されました。続く平成 27 年度事業計画(案)は新井副会長が、これに伴う予算(案)を萩原理事が説明し、これも満場一致で承認されました。次の役員選出では、杉浦会長が改めて互選され、引き続き、会長により新副会長に矢野末義さんが、再任の理事 10 名と監事 2 名が改めて指名されました。また顧問の任期も会長に準じており、現顧問 5 名が再指名されました。最後に我々がもっともお世話になる事務局書記の「川久保和子」さんが紹介され議事が終了しました。

議事終了後、会長から今年度のリーダーに委嘱状が手渡され、また協会に貢献されてきた下記の方々への感謝状の贈呈、新入会員 10 名の紹介、挨拶等があり、全ての次第を終えました。

- 15 年継続会員(敬称略、以下同)
増沢一朗、三原徹次郎、二宮克弘
- 10 年継続会員
大久保林一、川口真人、小林和雄、杉本隆男、平田忠夫、本間弘、丸岡敏夫、吉田征人
- リーダー及びサブリーダー退任者
稗田建、原田龍次、杉本隆男、篠原憲一

- 年間10回以上活動会員【()内活動回数】
池田繁敏(17)、小山完治(15)、佐野正生、小川恭治、瀧澤勝(以上14)、中田勝司、吉田安輝、中込孝仁、新川彰(以上13)、船山吉久、伊藤政行、林健一郎(以上12)、荒川晃、浅田光昭、本間弘、井上幸夫、舩原邦明(以上11)、倭文佐一、岩井壯三、丸山勝彦、黒淵弘二、高橋好弘、藤井賢介(以上10)
- 本部役員退任者
小山幸也

総会終了後、60名の方々が場所を都庁第二庁舎4階食堂に移し懇親会を行いました。矢野副会長の元気の良い司会の下、杉浦会長の乾杯に始まり、途中新入会員の楽しい挨拶もあり、元気よく和やかな時間を過ごし、駆けつけた村尾顧問の締めでお開きとなりました。会員の皆様長時間の御協力誠にありがとうございました。今年度もよろしく願いいたします。



紹介された新入会員

広報担当理事 林幹生

定期総会に参加して

今年度から建設防災ボランティア協会の会員となり、初めて定期総会に参加しました。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回参加して改めて感じたことが、2点ほどありました。

一つは、当協会が、平成7年の阪神淡路大震災を契機として、平成9年6月に設立され、既に丸18年が経過しているということ。そして、

この長きにわたるボランティア活動に、ID番号から推察して、これまで延べ234名もの皆さんが携わってこられたということです。

現在も154名の方が会員登録されていて、会員の方々は皆さん、公共土木施設の整備、管理等の深い経験や知識を持っておられます。これほどの組織が、永年にわたって、しっかりと体制を運営、維持し、建設局や道路整備保全公社、公園協会と連携して、日頃から大規模地震など東京で発生が想定されている災害、有事に備えていることを実感しました。

二つ目は、その活動が、都の総合防災訓練や局の初動対応訓練など防災訓練への参加は勿論のこと、発災時など、もしもの時の活動に活かせるよう災害や防災等に関する知識、情報を得るため、救命技能の講習会や砂防に関する講習会、大規模な公共事業等の現場見学会の開催など、多岐にわたり年間を通して数多く行われていることです。

また、各建設事務所が行う道路施設点検や河川愛護月間の行事等への参加、協力を行うとともに、勝鬒橋見学ミニツアーの説明・案内役として、年末年始等を除くほぼ毎週、支援活動をしています。

このように、本当に幅広く様々な活動を展開していますが、これによって会員相互の連帯感や一体感をより強くしていると感じました。

この1年を見ても、広島市の土砂災害や御嶽山の噴火、最近の箱根や浅間山の火山活動の活発化など、災害はいつどこで起きるかわかりません。災害が起きないことを祈りつつも、災害への備えに遣り過ぎはないことを、総会に参加し、改めて肝に銘じたところです。

六建班 横井 純夫

第1回リーダー会議開かれる

今年度第1回リーダー会議が6月29日午後、道路整備保全公社17F会議室において開かれました。これは、1週間前の第19回定期総会で承認

された事業計画に基づき、本年度事業を円滑に進めるために協会役員と各事務所リーダー・サブリーダーの方々との意思疎通や意見交換等を図るために毎年行なっているものです。

会議は新井副会長の司会進行のもとで始まり、最初に杉浦会長から「昨年はリーダーの方々を始め会員の皆様のご協力で円滑な協会運営ができたことを感謝いたします。本年度も現役時代の経験を生かし、各事務所班でのチームワークを図りながら本年度事業を円滑に推進していただきたい。」との挨拶がありました。

議事に入り、新井副会長から、1) 27年度会員について、2) 河川愛護月間行事の支援、3) 東京都総合防災訓練、の議題が示されました。

最初に、27年度の事業予定については、二宮副会長が本年度の各事業についてその概要、実施時期、担当役員などを説明するとともに、各事務所と意見交換会等を行うなどして事業の円滑な実施をお願いしました。

次に河川愛護月間行事の支援については、佐藤、高橋理事から都民参加行事の「川を歩こう」の実施にあたり各事務所の担当者と連絡を密に協力してほしい。また「川のパネル展」及び「東京の



川を考えるシンポジウム」については、担当理事が会員へ個別に協力依頼を行う旨の説明をしました。

東京都総合防災訓練については、久保田理事から説明があり、実施日は9月1日(火)、会場は昭和記念公園ほか、震災時の「自助・共助」体制の確立並びに行政及び防災機関の「連携」を目的とし、主な訓練内容としては、①地域住民の避難場所への避難訓練及び避難場所運営訓練、②住民共助による訓練、③建物倒壊からの救出救助活動等訓練、④モノレールからの救出救助活動訓練等、の案が検討されているとのことでした。具体的な訓練内容は現在協議中とのことであり、決まり次第、建設局から連絡があるので北北

建班、西部公園班のリーダーへは別途通知することでした。

各リーダーとの質疑応答では、①各事務所班内部での情報連絡方法の改善 ②本部とリーダー・サブリーダーへの情報交換をこれまで以上に密に願いたいとの意見等が出され、本部内で検討することになりました。

最後に、新井副会長から本年度も建設局と密接な連携を保ちながら事業を円滑に実施していきたい。リーダーの皆様のご協力をお願いしたいと挨拶があり、閉会しました。

広報担当理事 高橋紀男

初めて参加！！

—東京都・八王子市合同風水害対策訓練—



松浦所長と高橋、矢野両会員

東京都が区市町村と合同で風水害対策訓練を行うのは昨年の奥多摩町に続き2回目である。建設局としては総務局総合防災部よりの協力依頼を受け参加する形となっている。昨年の西多摩建設事務所に引き続き、今年は5月31日(日)南多摩西部建設事務所が参加することとなり、土砂災害発生に関わる情報の伝達訓練及び会場内(八王子市立恩方第二小学校体育館)で、土砂災害警戒区域等に関する広報啓発のためのパネル展示を行った。

協会としては松浦所長から杉浦会長宛てに会員の派遣依頼を受け、砂防ボランティアを併任している矢野末義会員と高橋紀男会員が応援派遣されることとなった。

今後毎年、梅雨や台風シーズンとなる前のこ

の時期に、地元自治体と都の合同風水害対策訓練が実施されるようで、地元自治体の風水害の想定形態により訓練内容は変化すると思われる。

八王子市は都内でも土砂災害危険個所が多いことから、訓練は台風による集中豪雨で土砂災害警戒情報が発令され、さらに被災者も出ていることを想定し、消防庁（ハイパーレスキュー、地元消防団）・警察・行政（都、市）・地元住民ら約1,000人が参加する規模となった。

消防関係の訓練は、プールを利用し、急流河川の中に取り残された親子をボートで救出したり、崩れた崖の中腹に残された人をロープにより崖下まで搬送したり、倒壊家屋から閉じ込められた人を救出したり、救急ヘリからのホイスト降下・担架での救出などであり、普段の訓練の成果が発揮されていた。また、市の道路部隊による道路啓開や住民参加による水防工法訓練、炊き出し訓練など、小学校校庭の狭い会場でコンパクトにまとまっていた。その他体育館においてはパネルによる土砂災害啓発のほか、心臓マッサージなどの救命講習会も盛況であった。

建設局本庁からは中島河川部長、渡辺土砂災害対策担当課長も参加し、南西建からは松浦所長、工事課大竹課長代理、他職員数名、公園協会からも二名の応援職員が出席した。訓練は予定通り12時に終了、前田副知事と八王子市長から「伊豆大島や広島市の様に土砂災害は多くの人命を奪い、突然発生することが多いが、日ごろからの備えにより生命財産を守っていくことが大切である。」という講評を受け、本番さながらの訓練は全て終わった。

感想であるが、前日夜の小笠原を震源とする地震や日本各地での火山噴火による住民避難などを身近に感じ、現実感のある訓練となっていた。南西建設事務所の皆様には、車での送迎を始め大変お世話になり有難うございました。

南西建班 高橋紀男

砂防ボランティア全国の集い

砂防ボランティア全国の集いは、年に一度、全国の砂防ボランティアが一堂に会し、その体験を発表し合うことなどにより、ボランティア活動の今後のあり方や技術の研鑽に努めること等を目的として開催されています。例年、土砂災害防止月間(6月)の初旬に行われますが、今年度は、6月



4日(木)午前11時から山形県山形市「山形テルサ3階」(アプローチ)で開催されました。当日の様子

を次第に沿って報告します。

◆ 主催者挨拶

砂防ボランティア全国連絡協議会会長 森俊勇氏

本年5月末の砂防協会等の設立状況は71団体、約6,000人の会員数である。最近の傾向としては会員の高齢化や会員の確保が困難になっている状況が見受けられる。今後OBの皆さんが気軽に参加し易い形を工夫していく必要がある。また、本日功労者表彰が予定されているが、協会のHP(※1)にも掲載することになった



ので会員の皆様にお伝え願いたい。

◆ 来賓挨拶

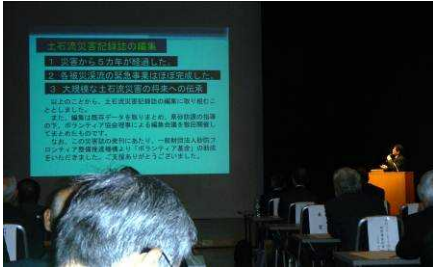
国土省水管理・国土保全局砂防部長 大野宏之氏

昨年の土砂災害の発生件数は1,284件で死亡者数は81名となっている。土砂災害から人命を守るのはいかに難しいか痛感させられる。昨年広島では70名を超える尊い命が奪われた。避難するしないは最終的には住民の判断となるが、そのための知識の普及が必要と考える。今後、行政のみならず防災ボランティアの皆様の活動にも期待したい。

◆ 協会活動報告

① 山口県防災・砂防ボランティア協会

平成21年7月21日午前、山口県防府市・山口市を中心とした集中豪雨により、多くの土砂災害が発生し、この災害から5年が経過したが、改めてこの災害を風化させず、将来にわたり伝承して



いくため、土石流を主とした災害記録をとりまとめ「災害記録誌」として

刊行することにした。

因みに、平成21年7月の土石流災害の概要は最大時間雨量63.5mm/h(この地域では観測史上最大)その前6時間の雨量が220mm/6hで、皆様も記憶にあると思いますが、特別養護老人ホーム「ライフケア高砂」の入所者7名が亡くなりました。

② 日光砂防ボランティア協会

土砂災害防止広報活動と国の登録有形文化財である砂防設備を守ることをテーマとして

- 1) 土石流危険溪流の点検(大谷川流域)
- 2) 稲荷川砂防設備(国登録有形文化財及び土木遺産)の損傷箇所の調査及び改修方法等のアドバイス
- 3) 広報活動の支援(日光ツアーウォーク等)について、それぞれ活動報告がありました。

◆ 砂防ボランティア活動等功労者表彰(※2)

岩手県盛岡市の米沢谷誠悦氏をはじめ34名の方に森会長から表彰状が手渡されました。

◆ 斜面判定士(※3) 認定証授与

今年度の斜面判定士の授与対象者は37団体、193名であり、青森県及び愛媛県の砂防ボランティア協会が代表として受領しました。

◆ 砂防ボランティア基金(※4) 交付決定書授与

全国の団体から40件の応募があり、5月19日の審議会に諮り、39団体に計320万円の助成金を交付することとなり、代表として山形県砂防ボラ

ンティア協会の押野会長が受領しました。

◆ 閉会挨拶

山形県砂防ボランティア協会 押野会長

近年、降雨量が多くなり、また、それによる災害も多発化の傾向がある。ボランティア協会として、今後も地道にしっかり活動していくことが使命と心得ている。皆さんと共に頑張るって参りたい。

※1 協会のHP

<http://www.sff.or.jp/volunteer/katsudousiryou/>

※2 砂防ボランティア活動等功労者表彰

HOME>公共事業への取り組み>砂防ボランティア
全国連絡協議会>砂防ボランティア活動等功労者
表彰

※3 斜面判定士

HOME>公共事業への取り組み>砂防ボランティア
全国連絡協議会>斜面判定士とは

【一部抜粋】

「土砂災害の危険個所を日常または災害時に巡視・点検するためには、一定の土砂災害に関する知識と経験を有することが重要です。一定の要件に該当する方々を平成8年度から斜面判定士として認定登録しております。斜面判定士は下図の手続き等(図略)により認定・登録されます。平成27年6月現在、全国で2,825名が登録されています。」

※4: 砂防ボランティア基金

HOME>公共事業への取り組み>砂防ボランティア
全国連絡協議会>砂防ボランティア基金

【一部抜粋】

「砂防ボランティア基金は砂防ボランティアの活動に対する助成事業を行うことにより、安全で健やかなそして生き甲斐のある地域社会づくりに寄与することを目的として設立するものである。」

午後は、会場を1階(テルサホール)に移し、国土交通大臣・山形県知事・山形市長の挨拶の後、以下の3つのプログラムに沿って進行し、17時で終了となりました。

① パネルディスカッション(土砂災害から命を守るために考えよう)



- ② 特別講演(防災に役立つ天気予報活用法)
③ 事例報告(活かしてほしい私たちの土砂災害体験・取り組み)

ここでは特に②の三ヶ尻知子氏(気象予報士)の特別講演の中のタイムリーな情報提供を紹介します。

7月1日から気象衛星ひまわり8号から衛星画像を受信することになるが、従来(ひまわり7号)と比べると、白黒からカラー画像となり解像度が約4倍になり、また30分に一度の送信頻度であったものが2分半に一度となる。このことにより、黄砂や火山の噴煙の状態、更に台風の雨雲の発達状況や予想進路等の解析に非常に有力な情報となるとの話がありました。

その後、テレビ等で実際の画面を見たところ(実際は7月7日から放映)、カラー化により噴煙が鮮明に見え、雨雲の動きも滑らかになったのが印象的であった。今後の気象情報の精度アップには是非期待したいものである。

終わりに、森会長の挨拶にもありましたが、全国の砂防ボランティアの設立状況は 71 団体 5,929 名(27年6月現在)である。その殆どの団体は専ら砂防施設に関する点検や土砂災害があったときの情報伝達等に係わっているが、東京都のように建設防災ボランティア協会の中に砂防ボランティア協会が包含されており、通常は砂防ボランティアのメンバーも道路点検や勝どきミニツアー、参集訓練等の活動に参加していることが、他の全国の組織と大きく違う点である。

また、全国の組織の中には阪神淡路大震災後にできた NPO 法に基づき法人化した組織が16

団体ある。この中には地元県や自治体の発注する委託業務を受託し、砂防施設の点検業務や被害調査等を積極的に実施している団体もあります。一方、中には活動費が少なく(会員の年間会費のみ)更に高齢化が進み十分な活動が行えない団体もあるようです。

参考までに昨年度の当協会員の平均年齢を試算したところ68.6歳となっています。このうち、砂防ボランティア会員の平均年齢は70.1歳となっており、年々高くなる傾向にあることから当協会の高齢化も例外ではありません。

全国的に地球温暖化の影響を受け、気象変動が大きくなっています。また御嶽山、口永良部島、箱根山等の火山が活発化しており、地殻変動も大きなニュースになっています。このような状況下で防災ボランティア協会、砂防ボランティア協会の役割も更に重要なものとなっています。今後も行政や関係機関と連携をとりながら着実に活動していくことが必要であると考えます。

砂防担当理事 佐藤清美

北北建との意見交換会

平成24年度から毎年開催されている北北建との意見交換会が、27年3月12日に行われました。今回は、北北建の工事現場視察、管理職との意見交換会、引き続き懇親会と充実した内容となりました。

北北建からは、現場視察に藤田所長、飯村工事第一課長、荒川工事第二課長、富澤工務係長等にご同行頂き、意見交換会には全管理職の方々にご参加頂きました。また、懇親会にも皆様にご出席頂きました。

協会(北北建班)からは、藤井リーダー、飯塚サブリーダー、藤江、林(銑)、吉原、野村(隆)の6名の会員が参加しました。

参加協会員は、15時30分に北北建会議室に集合すると、挨拶もそこそこにヘルメットを手にし、マイクロバスに乗り込み、現場視察に向かいました。

最初の視察現場は、空堀川の整備事業（東大和市の東芝中橋付近）でした。特徴のとして、一般的な河川改修手法である下流からの拡幅整備と同時に、中上流部の蛇行し



ている現河道に対しショートカットする計画河道を、暫定的に調節池として活用してきたこと、また蛇行していた旧河道を洪水時に調節機能を持たせ、普段は地元市管理の遊歩道として整備していることなどがあります。これらの説明を聴くにつれ、長年に渡る現場の工夫や苦勞が今やっと花開きはじめているような気がしました。

次の視察場所は、国分寺3・2・8（府中所沢線）の西武国分寺線（鷹の台～恋ヶ窪間）と



の立体交差事業でした。この現場の特徴は、鉄道前後の用地がまとまって取得できたため、工事に時間を要する鉄道交差部の工

事が、他の箇所より早期に工事着手できたこと、また単線である鉄道との交差角が大変スキュー（道路側から見た交差角 49.5° ）であること、工事桁方式により工事が進められていることがあります。なお、この工事は西武鉄道への委託事業として行われていました。



西武国分寺線 立体交差現場

こうした現場での丁寧な説明や熱心な質疑

に伴い、視察終了時刻はかなり押ししてしまいました。事務所に戻っての意見交換会は、時間もない中、双方の自己紹介を行い、北北建からは事業概要を、協会からは建設局と一体となった活動内容を紹介させて頂きました。

引き続き、場所を変えての意見交換を行い、北北建と協会の意思疎通がかなり図られたと思います。

最後に、お忙しい中、有意義な「意見交換会」を開催して頂き、合わせて普段見ることの出来ない現場視察を設けて頂きました藤田所長を始め、北北建の管理職、関係職員の皆様に、この紙面をお借りしまして御礼を申し上げます。

北北建班 野村 隆

南東建との意見交換会

2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックや東日本大震災の復旧・復興事業への対応のため、行政も民間も土木技術者の不足問題が大きな課題となっている。これは以前公共事業が抑制され、行政も民間も技術者の採用を控えてきたこと。また、この数年で技術力を永らく担ってきた「団塊の世代」の大量退職が重なったのが大きな要因である。

この技術者不足の対策に取り組むには行政も民間も定年退職した技術者を再雇用し急場をしのいでいるのが実情である。このような中で防災ボランティアのメンバーの長年培った技術力を後輩職員に伝えようと、南東建では数年前から事務所の職員と防災ボランティアのメンバーによる定期的な意見交換会を開催してきた。

今年平成27年3月10日に元土木技術研究所（現土木技術支援・人材育成センター）で長年土質や地盤を研究されてきた杉本隆男さんが「都市土木工事に伴う地盤災害のトラブル・シューター」という題のもとに、地盤災害の誘因と素因、基礎や掘削盛土の問題、道路陥没や擁壁の変形、地下水の問題等についてパワ

ーポイントを活用し1時間半に及ぶ格調高い講演を行った。このテーマは杉本さんが長年地盤災害の問題等に取り組み実際に解決してきた様々な事例をもとに分かりやすく構成されたものである。南東建からは中村所長以下全管理職と職員20名、杉本、田澤、織田、植杉、本間、矢内、大坪、原田の8会員が参加し熱心に講義を聞いた。

講演

都市土木工事に伴う地盤災害のトラブル・シューター
～地盤工学の視点から～

約34年間の東京都土木技術研究所在籍中に培った地盤災害対応の経験から、東京都が特注した道路・河川・橋梁・トンネルなどの都市インフラストラクチャーの建設工事、および被災事例の原因究明と対策提案。

日時：平成27年3月10日（火） 15時30分～17時
場所：南多摩東部建設事務所 第一会議室（地下1階）

- 内容：1 地盤災害とは？
1.1 地盤災害の誘因と素因
1.2 誘因
2 地盤災害のトラブル・シューター
2.1 掘削の問題
2.2 斜面/盛土の問題
2.3 基礎の問題
2.4 道路陥没：道路下の空洞
2.5 擁壁変形：側壁の繰り返し変位と土圧増加現象
2.6 地下水の問題 地下水流動阻害
3 素因
3.1 東京の地形区分と地質断面
3.2 地盤を構成する土の状態

フリーディスカッション

地盤に関する構造物、即ち擁壁、蓋床、斜面防護、地盤改良などの構造物設計や地盤調査法、それらに関する事項について

講師：早稲田大学 招聘研究員 杉本 隆 男
（平日建設シビル 上席調査員
元・東京都土木技術研究所 技術部長）

フリーディスカッションでは道路舗装の振動や騒音に対する土質上の問題と解決策や、河川の調節池築造時における井戸枯れの誘因や対策等熱心な質疑応答がなされた。南東建が現在及びこれから事業を進めるに当たり実際に生じる課題などが議論され大変有意義であった。また、南東建のご配慮で管理職との懇親会も設営され懇親を深めることができたのも大きな収穫であった。

このような都庁OBの経験・技術を評価し活用していただいた中村所長を始め管理職・関係者の皆さんに感謝するものである。

南東建班 原田龍次

新規会員の紹介

前回の紹介以降下記の5名が入会されました。

横井純夫さん（六建班、ミニツアー）

藤田雅人さん（二建班）

佐々木雅紀さん（北北建班）

若尾啓介さん（南東建班、砂防、ミニツアー）

村山公一さん（一建班）

皆様よろしくお願いたします。

※ 協会からのお知らせ ※

- ① 記事にも書きましたが、今年度から道路整備保全公社の川久保和子さんが、事務局書記として私達の活動のお手伝いをしていただくこととなりました。よろしくお願いたします。
- ② 各班の活動報告をお待ちしています。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。たまに閲覧してみてください。

アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

